村のようす (43.2月1日現在)

世帯数 X П 里

1,426戸 7,691人 3,734人

女 面 積 3,957人 46.62km THE KOHO TAMAKAWA

編集と発行 福島県石川郡玉川村役場 大越力夫 でんわ 川辺 1・39・124 刷所 印 須賀川市加治町69 有限会社 円 谷 印 刷



昭和41年6月に流失した県道千五沢矢吹線の阿武 隈川に架かる玉城橋が災害復旧事業として県が施行し て参りましたがこの程永久橋として完成致しました。 玉川村から矢吹町に通ずる村内橋が木橋であり荷重制 限等により大型車の通行不能のため何かと不便を感じ て居りましたがこの橋の完成により交通のスピード化 されたことを村を挙げてお喜び申し上げます。

本工事の費用及概要を申し上げますと

育 委

員

会

公民館

昭和41年度

下部工

11,152,000円で水谷工業請負

昭和42年度

上部工

18,860,000円 で オリエンタルコンクリート株式会社請負

下部工

5,150,000円で水谷工業請負

取付道路

2,790,000円で水各工業請負

37,952,000円 計

九六五日日日

中学校卒業式中学校卒業式中学校卒業式 小中学校入学式 小学校卒業式

雷会議

対象

쁫下 上 旬旬 教

建 昭和四十二年度失対事業精土木補助事業精算 設 課

三九日 二一七日 六 日 子牛せり 石川国調経理指導へ **農業就業相談員会議** 住宅改善資金説明会 11

(石川)

阿武隈山系計画連絡会議

釜農構) たばこ共同育苗指導会 川石導東川会 (北須 石

五二日 日日

六日

9 日子センター 乳幼児検診 須釜支所 須釜児童館修了式 須签児童館入所式

住 民

罕写三二二一一 上一一八十 旬日日日日日日 福島県知事選挙告示村議会議員選挙 投票村議会議員選挙 投票 新区長会 投票日

三月の行事予定

務

課

近代社会の飛躍的な発展にともなう社会構造の変華により、 玉川村においても特に農業経済の急速な変ぼうは著しく、種々な る面で困難な問題を山積している。明日の社会の担い手としての 青年のもつ役割は重大である時、これが資質の向上をはかり、よ りよい郷土社会の振興に寄与するため、玉川村青年団主催玉川村

村政となることを希望しているものでありま て居ります。希くは村識も青年層中年層高令を充分に拝聴して村政に反映させたいと考え を願いたいと思います。私は青年諸君の意見 意気込みをもってどんな事でも遠慮なくお話 当している次第です。今日は村長を教育する うとして職員総親和の精神をもって村政を担 であせらず緊急度の高い問題から前進させよ を一歩ずつ前進させることにあると思います ることは私としてこの上もない喜びとすると 諸君と共に農業問題について語ることの出来 者層と各層からその代表が出て村民のための が本問題は容易に解決される問題ではないの のために幸せを願っているものでその幸せを ころであります。私は常に私心を捨て」村民 つくる根本は純農村である本村農業の諸問題 村長あいさつ 本村の将来を双肩にになう 佐久間安直君(青年団長)

いての意見をお願いし 司会農協問題につ 見るのと事実はそうで めているので外部から はない、農協の一本化

どうなっているだろう 係についてはそのよう に見るかも知れないが ないように見られるが にはしっくりとしてい 村と農協の関

者でよく話し合って進

農業問題については両 鈴木君 農協と役場 があって容易ではない はどうですか。 たが一本化出来るよう 見ることが出来なかっ についてはその実現を と思うが村当局の考え ついては地域的な差異 努力を続けている。 円谷君 農協問題に

なく意見を述べていたゞきたいと思います。 す。どうか諸君は前に申し上げたとおり遠感 中堅青年派遣生及玉川村4Hクラブの後援により去る二月二十九 日玉川村役場会議室に開催された「村長を囲む会」の記録です。 近内正雄君(派遣生農事研究会長) 異っているので簡単に く関係するので仲々難 は進まないが須釜とし くなってゆく。 関係すべてについてよ って行くと思う、営農 かしい。 問題は金融機関が大き りと考えている。農協 る。学校統合問題も然 ずにチャンスを見てい はないと思う、あせら 時期を待つより外に道 しなかった、要はその ては賛成、泉としては ば村全体としてよくな 差が大きいが合併すれ 賛同し難いとして一致 産業課長 両農協の

だろうか。 るよう研究してはどう 区的に差異を少なくな 須藤君 それには

両者の財産が ことをよく考え助け合 に代金も支払っている 成についても、反別割 たい。北須釜の農地造 をもつと養ってもらい る。そして共同の精神 ただきたいと思ってい いの精神を堅持してい 村長 村民が相手の (二、〇町歩)或は三、

をもってやってもらい 指導員の増員を希望す 佐久間君 お互にゆずりあら心 村の営農 町歩)位ないと理想的 〇ヘクタール(三、〇

処したい。 御意見を参考として善 て指導に当らせたいが 業課職員より出張させ の不足の分は役場の産 増員の必要がある。そ

傾向にあり、機械化農 地の少くないのを望む

規模なら少規模なりに 考えている、しかし少 経営は容易でないとも をはかり、大農的経営 しなければ今後の農家 にもって行くよう努力

とも二、〇ヘクタール 平均は一、一ヘクター も必要ではないかと考 ので、これからは少く ル(一町一反)である えられる。本村の耕作 うので、その点の研究 経営の工夫もあると思 導者営農指導者等もっ 真剣に考えてもらいた してもっとこの問題を

そ重要で伝習農場を卒 真に農業に従事しよう でないと思う。しかし

司会農協問題はこ 御意見の通り いである。そこで青年 は頭の下がる念で一ぱ しようとする後継者に

考えて見ると嫁は耕作 す。 減少していく原因等を 村長 農業後継者が 産業課長

としては農地の集団化 々なる問題があるが私 農産物の価額安定等種 や農業経営の困難性、 業による購入費の増大 する者を重点とするか 用してもらいたい。

と指導機関として公民 館だけでなく村全体と 進みたい。 るかを伺いたい。 円谷君 後継者育成

事する者を重点として に従事する者を主とす 仕方なく無理して農業 村長 真に農業に従

と充実してほしい。 どうであるか公民館と 致します。 る考はないか。 連絡をとって一本化す ついて産業課の考えは 大竹君 このことに

司会

業して村の農業に従事 それに専念出来る人を 易ではない。 ている、しかし現在の 何とかしたいとは考え 村財政ではなかく容 いても専門的に真剣に その問題に

鈴木君 後継者育成

できると思う。 農業に従事することが すれば後継者が喜んで る生活が出来るように 産物の価額の適性化を も考えている。更に農 て青年研修所の設置等 て研究する寄り所とし 語り合い寝食を共にし 諸君が真に農業問題を はかり農民がゆとりあ 各町村にお願いして月 については普及所より 化は出来ないものか。 になるのでそれの一本 日に開かれている場合 立てとなり、しかも同 で農業学園講座と二本 学級を開設してやって に両者に出席するよう いるが農業改良普及所 車田主事 農学講座

題についてお願いしま の位にして、後継者問

として真に農業に従事 金を導入し、これを利 者として後継者融資資 三吉君 後継者問題 農業後継 あるので変更の連絡を は岩農の先生の担当で ので共催することにし たい旨申し出があった てやったが一月二十日 に共催の形で協力願い 一回青年学級の授業日

って熱心な諸君に迷惑 たわけで、同時にやる 授業をやっていただい 岩農の先生がおい出に 生と連絡不充分のため していたのが担当の先 わけではなかった、従 なったので青年学級の りたい。 村長 きびしくする

をかけたことを御詫び て行きたいと考えてい 営農出来る精神を養っ 君に大いにこれを活用 て青年研修所を作り諸 行けないと思う。そし れからの農業はやって とで安易な考えではこ 度を養いたいというこ を真剣にやるという態 と云うのはこれから農 していただき、喜んで 業に従事する者は農業

の事業についてお願 次に構造改善 (次頁へ続く)

たいと思っている。 もよく研究して善処し 車田主事 後継者教 公民館と も出来ると思うので却 の事業は平地はいつで します。

佐久間君

構造改善

として公民館では青年 がよいではないかと思 するようにしていく方 以上は農業学園生とか 級は十八才まで十八才 ようにしたい。青年学 り争いみたいにならぬ 営が容易でなく、繩張 者が同じ場合はその運 て青年学級の開設は昭 年学級振興法に基ずい 庁社会教育課の方で青 方でも県の農政部の方 育については普及所の からの指示もあり教育 しているのでその対象 年度から実施 ·d 出来ないものでしょう 出来ると思う。その分 正当の手続きをとれば 合は出来ないものか。 合については個人の分 佐久間君土地の交換分 注ぐ考えである。 成については更に力を とが必要なので農地 の要請によってやるこ すが、そうしたことは ってはどうかと思いま って山間地帯を先にや 村長 これは地元民 村長 両者で納得し

どのようにするのか承 長さんの話をきいたが はきびしくしたいと村 鈴木君,後継者教育 ていないか。 即ち少数の分合は考え に考えている。 合の点についても充分

熊谷君 少しの土地

村長 集団的に分合

と考えている。 することを主としたい 熊谷君 ブルの購入

てですが農作業の都合 になると思う。 によっては日曜や夜間 について御伺いしたい 三吉君 ブルについ 村長一今年度は三台

らいない。月曜日が雨 遅れるばかりなので日 日には運転者は出ても までも進めなければな 天にでもなれば作業は らない時もあるが日曜

o 本村大字蒜生地内に立派な記念碑が完成し o

合併記念碑が完成しました

o ました。台石は田村郡の黒みかげ石、碑は o

両村の合併を決議村名を玉川村と命名すること

た。この席上両村合併促進審議会を結成改めて

すの

村の歩みよりをみて昭和三十年二月五日第一回

のために離合集散難行を極めたが遂に泉須釜両

合同会議を須釜小学校に開催するに 至りまし

を満場一致で決定しまた。その後両村議会に於

昭和四十二年三月三十一日

「附して曰く和を以て貴となす」と

玉川村初代村長

木

久間

栄 夫 撰 敬 書 文

出同年三月三十一日付を以てここに待望の玉川

て正式議決同年二月十八日合併計画書を県に提

村は目出度く誕生したのであります。

って献身的に完成して下さったものです。 仙台産の稲井石で小高の関根石材店が請負。

0

第二次世界大戦が終結の後町村行政の復雑化

村長 ブルの使用に

いても継続的に出来る

園を設置したいと考え

だめでないかと思う。 ような計画をたてねば

佐久間君 国有林開

り改革に踏切ったのであります。

和二十八年九月一日町村合併促進法の制定に依 ならない状態となったので政府は之に応じて昭 と財政貧困のためこれが打開策を講じなければ

かの話合いが行われ交通の便或いは立地条件等

ここに於て各町村とも隣接町村との間に幾度

と共に当時役員として苦心その衝に当られた方

各位の御協力に対して深甚なる謝意を表します

々の労苦は多大なるものであります。

衝から合併実現に至るまで長期間にわたる村民

顧みれば合併促進法施行以来隣接町村との析

があった場合はやって ないものでしょうか。 曜日でも夜間でも要請 えていただきたい。 出来るような方法を考 高価な物をフルに使用 いただくような方法は (前頁よりの続き) かい その外利用方法を考え て見てはどうでしょう のでしょうか、例えば 牧地に利用するとか。 開放していただいて放 については放牧等につ 村長 国有林の開放 三五〇万円支出して児 いと思います。 く両地区設置してほし すので北須釜だけでな 常に役に立つと思いま ょうか、農繁期には非 童館が出来たが児童館 村長 北須釜区から

ようか。 有林はどの位あるでし ついてお願いします。 関根君 玉川村の国 司会 国有林開放に 法はないでしょうか。 けて一般に貸付ける方

えている。

来るのではないかと考 ば日曜夜間等も利用出 で運転手さい承知すれ のではないかと思うの ついては請負制になる

について、牛を借り受 放とはちがう産業振興

七五〇ヘクタール(町) ルにすぎない。 村有林は五〇ヘクター 産業課長 国有林は

め、本人の借金となっ

で借り受けて貸付たが 経営が上出来でないた ってはいるが、四〇万 村長 この貸付もや

用出来る方法はないも について、全村民が利 国有林開放 置する考えはないでし はない。 で、此の問題も容易で てしまった例もあるの て両地区に児童館を設 村越君 玉川村とし

> でなく近い将来に幼稚 られないものでしょう 区になっているので基 幹作目として取り入れ しょうか。 寺は果樹の集団指定地 やりたくとも土地がな せんしてもらいないで いので国有林等をあっ か、この果樹をもっと

ものか。 村の特産物は出来ない

いてお願いします。

題が解決出来ると思う 合の処置としてその問 ている。これも学校統

司会 基幹作目につ

はない。そして本問題 作目をとり入れる考え た作目に力を注ぐべき 村長 これも新しい 葉たばこ等はなるので 村の特産物とはなって はないかと思うが伸ば ばしてやりたい。 いない。特産物として

うかと思うが。 を取り入れることはど の他産地としての玉川 円谷君 食糧品、そ

少くして地域に合致し 数多くとり入れないで 円谷君 基幹作目も 小高白菜がよかったが すべき産物は大いに伸 村長 そ菜類として

だと思います。

めるのが良策ではない は農協を中心として進 鈴木君 竜崎、岩法 についてお願いします

かと思う。

須藤君 農村問題や 望に添えなくて申訳な 予算の関係上全部の希

門図量を数多く備えて ではなく専門の研究を て購入することは容易 しては何万も金を出し 産業課なりに農業の専 いただきたい。個人と 須藤君 公民館なり

か備えていただきたい 車田主事 公民館の

す 司会 時間がだいぶ 過ぎたので青年の希望

どうかお伺いしたい。 えである。 は各層から委員を選出 農業振興対策に対して 興計画書を公表する考 してやる計画はないか 村長 村としては振

村長 国有林に果樹 したいと思うので何と

していただきたい。高 る人数が少くないので 価な本を数多く講入し 青年諸君にもっと読書 かも知れないが読量す 的部門の本が少くない いただきたいので専門 図書は大衆に活用して てもその活用が問題で

後継者が相当いること る時本村に若い優秀な

たい。 習することもよいがそ きたい。 体に利用させていただ 写機を増加して青年自 の希望に添うようにし 置したい考えである。 て諸君の学習の場を設 は営農中心の姿の農協 よいではないかと思う れより本を読むことが 研究心の強い青年諸君 村長 映画を見て学 三吉君 一六ミリ映 角田主事 農協問題

い場所が必要と思う。

佐久間君

農協営農

村長 青年の集りよ

していただきたい。

に総合グランドを設置

までに資料を提示した でありたい。後継者問 い。農家には老人と婦 題については、三月末 人が多くなってきてい

に設けてもらいたい。 善処したい。 進地等を視察研究して 小林君 営農指導員

ますので次会は更に大

く参集するようにつと

数多く開きたいと思い ますが、こうした会は

したのでこの会を閉じ

司会 定刻になりま

設置については部門別 めたいと思います。 わりと致します。 集り諸君に感謝して

の純農村であったことを附記するものでありま 職員二十八名予算規模二八、一四八、八九三円 玉川村発足当時の総人口は九、〇四二人役場 として毎年特定のテー が実施され、本年は第 マを設定し色々の運動

わせにとじこもり、社 け生かされているでし ょうか、わが家のしあ 力は社会のためどれだ めに」ですが婦人の能 人の能力を、社会のた 本年のテーマは「婦

婦人少年室協力員 安 司

第二〇回婦人週間

めて参政権を行使した 昭和二十二年四月十日 我が国の婦人がはじ から一週間を婦人週間 を記念し、婦人の地位 向上を目標に四月十日

に敬意を表する。各部

ープを作ってもらいた 落に自主的に研究グル

い。(国有林開放、主

く思っている。 村長の民館の図書

あった)

幹作目について説明が

と思っているが人の力

参考として努力したい

村長 諸君の希望を

していただきたい。 但し基幹作目を中心と

の充実や研修等に備え

いてお話しを願います

司会一般村政につ

きるだけやってもらい

にのみたよらないでで

円谷君 村長任期中

問題は難かしいので先 導員等。 指導員或は生活改善指 らいたい。例えば技術 を両農協に設置しても であるので営農指導員 指導が主体となるべき 村長 営農指導員の

もらいたい。

大いに自重してやって 謝に堪えない。今後共 意見をきかせて戴き感 方を希望する。貴重な そのPRについて協力 力するよう諸君からも については全村民が協 であるので、この問題 ては極力努力する考え たい。農地造成につい

二〇回を迎えることに なりました。 うか。

いることはないでしょ 会への関心がうすれて ましょう。 会のために、それぞれ あたって、私等は有権 の態力を生かしていき う一度見なおして、社 いないでしょうか。 かで利巳的になっては 者としての役わりをも 第二〇回婦人週間に 経済万能の風潮の

の賞品は受取りましたか 当村内でお年玉年賀はがきの 当選は正に当り年で2月10日現

在で2等2本、3等4本、4等

0本の当選者がありました。 その他5等は400本余が当選

各家庭にはまだ当選されてい

賞品受領は7月19日まで

当せん番号 967996

129833

5 ケ タ 73301

ケタ

3 ケタ 54 867 下 3 ケタ 254 867 下 2 ケタ 75 38 91

死亡者氏名

世帯主行

続

"

卧

主 IF. (二月分の死亡届書から)

7116

る方もあると思いますので今一

度番号を確め早く御受取り下さ

お年玉賞品当選番号(各組共通)

名

トランジス ターテレビ

ズカ

切手シ

11

久間

賀 木

3/2 亀次郎

太

郎

北須签

鈴有佐草塩大真

野 沢野

ブ 3

1

政平楝好正主

雄重正功

1

- フサイ カ メ ラ

"

玉ト

南須釜

佐

蒜 川部

生辺 落

11

「お年玉年賀はがき」

交付されました。

です。

等級

1

2

3

4

5

四辻新田

半

乳児。 割給付実施につい 0

7

h

雪

関

根

栖

泉

ございます

(二月分の出生届書から)

孫続

男

いつもいろいろ

御願い申し上げます。

なお、須釜地区には

左記のように「電力の

店」を開設いたし電気

柄

東北電力会社より御知らせ

お誕

生おめ

でとう

に応じて医師の治療を

が、ビタミンなどは、 受けることが大切です

50

(NHKだより)

さけた方がいいでしょ あまり薬に頼ることは

者の皆さんにお知らせ たしますので、 婦の十割給付を実施い に掲げる乳児及び妊産 国民健康保険の給付割 合を、四月一日より次 康福祉増進を計るため 乳児及び妊産婦の健 被保険

支所に申し出てくださ を持参の上、本庁及び る世帯は、 世帯は、被保険者証尚、該当者のおられ 日

一、妊産婦(妊娠五ケ 一、乳児(年令一才と なる日の属する月ま なっています。交通ラ 使うことが非常に多く

る疾病に係る療養の給 及び産褥の合併症によ 分娩並びに妊娠分娩 但し妊産婦について 日の属する月までの 分娩した ことがあります。 目の疲れは、こうし

付を受ける場合にお

た外からの刺激だけで

持に欠くことの出来な

逝

去

おお

悔

3

申

し上げ

ます

機質とともに生命の維

ビタミンは含水炭素

タミン

0

効用

たんぱく質、無

す。

そしてビタミンは

現代の生活は、目を

は

健

康

0

怒

月になった日の属す 激し、目を疲れさせま ッシュ、テレビ、ネオ 労の原因になっている 排気ガスまでも目の疲 ぐるしく視覚神経を刺 ンサインなどは、目ま す。ときには、騒音や

る月から、

明細書に基づいて、後その後医師からの請求 応負担してください。 前のように三割額は一 ては十割給付となり いては医師窓口では従 割給付となります。 については従来同様七 すが、前記以外の疾病 本人に対して三割額 なお、この取扱に

> 3. 桑

0

寺

麦 雪

を支給することになり

のちあり老いて吹雪にこもりをり と妻の ふかき 青む 根 添 0 1= へる母子に雪のつのるなり 庭 土 野 日ざしとどきて犬ふぐり 若 0 の * 風 句 一つ家に犬吠えて 顏 遊 U あり 3: 0) 彼 岸 春 返 0 か 宵いし な

を考えず、 自分の日常

北

須釜

11

よくいわれることです てみること。 や内科の医師に相談し 疲れやすいときは眼科 えて下さい。それでも からだの調子なども考 生活やメガネの工夫、 「目は心の窓」とは

吉

なのです。 が、「目は健康の窓」 (NHKだより)

ます。目が疲れやすい 気からくることもあり

からといって、目だけ

そのものの障害や消化

なく近視、乱視など目

不良、糖尿病などの病

い五大栄養素の一つで 剤の影響からか、ビタ ン欠乏症は少くなりま によって子供のビタミ やくる病などになりや れが欠乏すると、脚気 する働きをするのでこ したが、逆にビタミン すくなります。 最近は食生活の改善 胞の新陳代謝を調整

不眠、





佐馬太の父 父 妻 母 弱したりします。 たり、肝臓がはれて衰 す。これがひどくなる 0 と、刺激が敏感になっ 痛みなどを起こしま いづれにしても病状

大小矢矢鈴斎 和 田針吹吹木藤 男 弓 典 子 竹 和 供 工生児氏名 小 真 明 由 百 二美和夫明合子夫代 - 郎 政 行勝行昭 英蔵

男

男

このたび弊社では現業 礼申し上げます。さて と御世話になり厚く御

南竜岩小蒜 / 須 法 釜 崎 寺 高 生

百紀子 俊玲和由剛 則子彦 一直重吉利義兼明文由源友重忠 ル孫長孫長孫孫 11

> 須釜出張所を廃止し、 い、来る四月一日から 機関機動化の充実に伴

左記場所に泉郷出張所

ら御知らせ申し上げま

敬具

販売等のご用命を承る の故障や、電球の引換

ことにいたしましたか

食欲不振、手足

後も旧に倍しまして御

二番地の二

電話川辺

大字蒜生字羽根石二十 所在地 石川郡玉川村

し上げますとともに今

したことを厚く御礼申

支援を賜わりますよう

過剰になると、子供は

にご協力をいただきま らく出張所の事務運営

力株式会社玉川出張所事業所 名称 東北電

電話川辺局七三番

吉村商店

吉村才

はかることといたしま

した。つきましては永

改称して玉川全村のお と合併、玉川出張所と

客様に一層のご便宣を

村大字北須釜字森殿二電力の店 石川郡玉川記

石川郡玉川

ビタミンAが体内に

ました。

11:14 三六

二元元

月例監査土地改 農村青年に対す 厚生委員及教育 良区監查 地積調查事業監 委員学校視察 文教

集後記

追いつくつもり でおります。 申訳御座居ませ 編集がおくれて 挙事務のため、 ん。来月号には 村議会議員選

助産所児童館監 経済土木委員会 = 戦没者叙勲伝達 る村政懇談会 地積調查推

選挙管理委員会 進委員会

₹

字

敷地買収委員会

村議会全員協議

法寺村有林測量 総務委員会 岩 先月の日誌 より 二月

定例村議会